

世界の“食”を変える——「完全メシ」の今、そしてこれから

飽食の時代と言われる現代において、オーバーカロリーや誤った知識に基づくダイエットによる栄養失調など、食と健康をめぐる課題は多様化・複雑化しています。

日清食品グループは、こうした課題に真正面から向き合い、従来の枠組みに捉われない“新たな視点と発想”をもって新規事業を推進。最適化栄養テクノロジーという
当社の独自のフードテックを用いたアプローチを通じて、健康的で持続可能な食生活の実現と、社会全体のWell-beingの向上に貢献していきます。

これまでの成果

2022年の発売開始から3年が経過し、「完全メシ」シリーズは累計4,800万食（2025年7月末）を突破。ブランド認知度は50%を超えるまでに成長しました。健康とおいしさを両立した商品として高い評価を受け、2024年度の売上（市場価格ベース）は70億円に到達。2025年度には100億円の達成が見込まれるなど、着実な成長軌道を描いています。

また、「完全メシ」は『日経トレンドィ』食品部門大賞や食品産業新聞の技術功労賞、「フローズン・オブ・フューチャー賞」など、数々の賞を受賞。革新性と話題性を兼ね備えたブランドとして、市場における確固たる地位を築いています。



「完全メシ」ブランドの現在地

多彩な商品展開で

累計4,800万食 突破！

「完全メシ」は、即席めんや冷凍食品、パンなど多岐にわたる商品展開で、累計4,800万食（2025年7月末）を突破。2025年春の新商品では、汁なしカップヌードルが計画比127%、木村屋總本店とコラボしたあんぱんが計画比132%を記録するなど、好評を博しています。



※発売初週から2025/3/31までの出荷金額の計画比

市場の話題化加速で

ブランド認知度50%超！

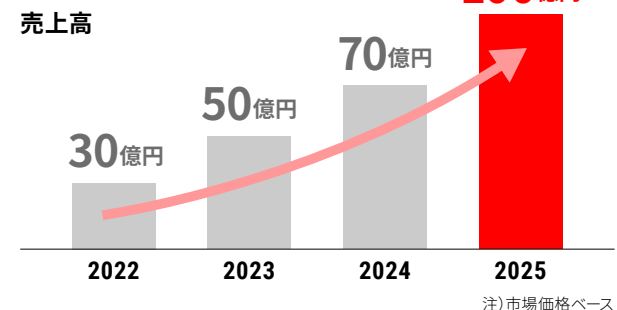
「完全メシ」は、『日経トレンドィ』の食品部門大賞をはじめ食品産業新聞の技術功労賞など、数多くの賞を受賞。2025年3月には「フローズン・オブ・フューチャー賞」に輝くなど、話題性が高まっています。ブランド認知度も50%を超え、市場でのゆるぎない地位を獲得しています。



着実な売上推移で

100億円ブランドへ

累計4,800万食（2025年7月末）を突破、ブランド認知度50%超という「完全メシ」シリーズ。健康とおいしさを両立した商品として高い支持を集め、2024年度の売上は70億円に達し、2025年度は100億円達成が見込まれており、今後もさらなる成長が期待されています。



新規事業 | 最適化栄養テクノロジーの多面展開

日清食品グループは、最適化栄養テクノロジーを活かし、パッケージフードから弁当・惣菜・基材などの小売商品や社員食堂、さらにその先にある多様な食のシーンに寄り添い、世界が直面する「食」の課題解決を目指します。

小売販売の強化

パッケージフードから弁当、惣菜、基材まで

即席めんや冷凍食品、カップライス、パン、スナック菓子など、幅広い商品ラインアップを展開。さらに、コンビニやスーパーとの協業によるお弁当やお惣菜を開発するなど、小売チャネルを活用した販路拡大を加速しています。



健康経営の推進

健康経営のソリューションとして

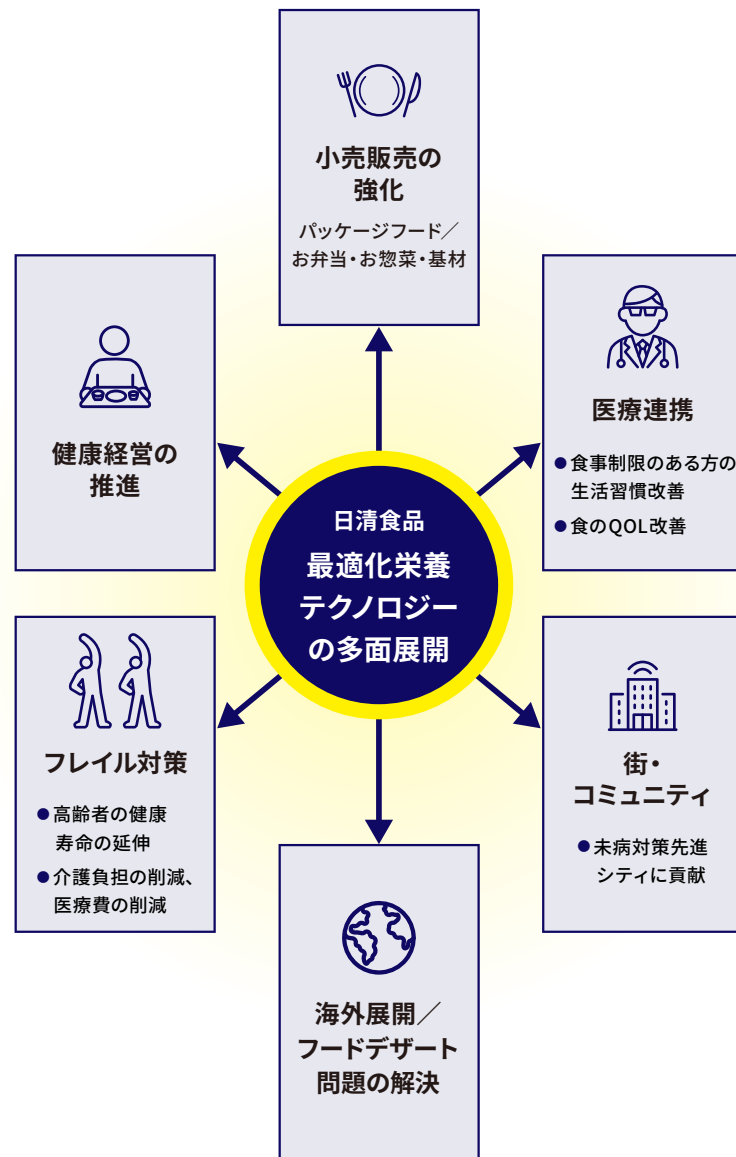
健康経営の一環として、社員食堂への導入も進んでいます。作りたてのメニューを提供する給食型から、冷凍食品を活用した設置型（スタンド型）まで、職場における多様な提供形態が広がり、働く人たちの健康づくりに貢献することを目指します。



フレイル対策

高齢者の健康寿命延伸に向けて

超高齢化社会の日本では、シニア層の健康寿命を延ばすことが重要な課題となっています。高齢者向けに、少ない分量でも必要なカロリーや、不足しがちな栄養素を補給できる最適化栄養食を開発・提供することで、フレイル予防と健康寿命延伸はもとより、介護負担の軽減、医療費削減にも貢献することを目指します。



医療連携

食事制限の厳しい患者さまのQOL向上に

厳しい食事制限のある糖尿病や高血圧の患者の方々にとって、食への満足度とQOLの低下が課題です。このような患者の方々のQOL改善につながる最適化栄養食の開発を目指します。



街・コミュニティ

「Toyota Woven City」での最適化栄養食の実証実験

日清食品は、トヨタ自動車が開発中の「Toyota Woven City」※で、最適化栄養食をいつでもどこでも食べられる環境を構築するとともに、利用者の心身や行動などの変化を主観と客観双方の観点から確認し、その有効性を実証していきます。



※Toyota Woven City: 静岡県裾野市に建設中の未来型スマートシティで、トヨタ自動車が主導する実証実験都市

海外展開／フードデザート問題の解決

食にまつわる課題の解決へ

世界では、肥満や生鮮食品が手に入りにくい「フードデザート」など、食に関する社会課題が深刻化しています。最適化栄養テクノロジーを用いて、世界中の人々に栄養バランスの取れたおいしい食事を提供することで、グローバルな課題の解決を目指します。

新規事業 | 完全メシを日本から世界へ

2022年、日清食品グループは日本で「完全メシ」の発売をスタートしました。

ようやく国内での黒字化が見えてきたなか、欧米でのテスト販売を足掛かりに、いよいよ世界での事業展開をスタートします。

日本

2026年以降の黒字化を見据えた事業展開

国内における「完全メシ」の主要な事業は、2026年度以降、順次黒字化を見込んでいます。

BtoBビジネスの社食事業は健康経営の高まりを背景に順調に伸びており、2026年度には黒字化する見通しです。また、BtoCビジネスのフローズン（冷凍食品）事業も、オンラインストア限定で多彩なメニューを展開する「冷凍完全メシDELI」も好調であり、2027年度に黒字化する見込みです。

一方、最も売上規模の大きいBtoCビジネスのグロッサリー（常温品）事業は、テレビCMなどを通じてシリーズ全体の認知拡大を促

す役割を担い、2028年度の黒字化を見込んでいます。

さらに、小売業、外食、メーカー様との連携も着実に進んでいます。日清食品が提供する「完全メシ」のパスタソースやカレールーなどの基材を活用し、スーパーでの店内調理による弁当販売や、ファミリーレストラン、宅配ピザチェーンとの協業など、提供チャネルの多様化が進行中です。この小売り・外食・メーカー様との協業によるBtoBビジネスは2029年度の黒字化が見込まれており、日本国内における「完全メシ」事業は、持続的な成長に向けて着実に歩みを進めています。

国内の各事業における黒字化予想

国内の各事業における黒字化予想					国内事業 営業利益黒字化		
事業年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
市場価格換算売上高	70億円	100億円	→ 420億円				
BtoC グロッサリー					2028年度 黒字化		
BtoC フローズン				2027年度 黒字化			
BtoB	社食事業	2026年度 黒字化					
	小売・外食・メーカー協業	2029年度 黒字化					

注) 上記以外の国内その他事業（および海外事業）を除く。また、研究開発費は含まない

海外

欧米で「KANZEN MEAL」のテスト販売を開始

「完全メシ」事業は、「KANZEN MEAL」のブランド名で海外での展開を加速していきます。2025年6月から米国で冷凍食品のパスタメニューからテスト販売を開始し、今後ラインアップを拡充する予定です。独立系チェーンを中心に600店舗での展開が決定しており、順次拡大していきます。

また、欧州では、カレーフレーバーのカップライス型商品で「KANZEN MEAL」の展開を予定しており、今年度末から来年度初頭にかけてテスト販売を開始できるよう準備を進めています。

今後も各地域の食文化やニーズに合わせた商品開発を進め、世界中の人々に「おいしさ」と「栄養のバランス」を届けていきます。

米国で展開予定の「KANZEN MEAL」



Spaghetti Bolognese

Fettuccine Alfredo

欧州で展開予定の「KANZEN MEAL」



JAPANESE CURRY RICE

KEEMA CURRY RICE

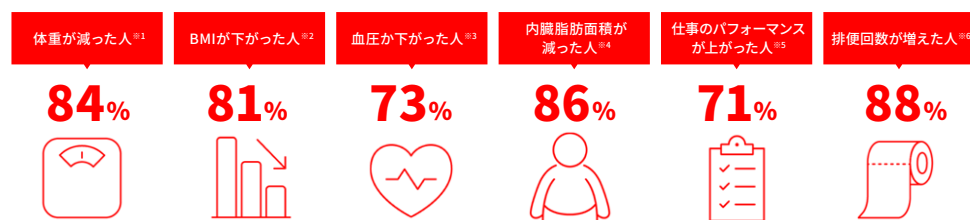
新規事業 | 最適化栄養食の基礎研究

33種類の栄養素を過不足なく摂取できるよう設計された最適化栄養食は、理想的な栄養バランスを実現しています。

基礎研究と臨床試験を通じて、その可能性は着実に広がり、社会の健康課題解決に貢献していきます。

バイタルデータの改善で健康な身体づくりに貢献

最適化栄養食の有効性を検証するために実施した臨床試験では、1カ月間に提供された84食のうち40食を最適化栄養食に置き換えた結果、栄養バランスの改善とともに、複数の健康指標において有意な変化が確認されており、健康な身体づくりに貢献する可能性が示されています。



注) 右記2種の臨床試験における各評価項目が改善した人の割合を円グラフで示す。試験①: 試験参加者: A社社員110名。試験②: 試験参加者: B社社員66名。
※1 体重: 解析対象者(男性)102名中86名で体重が減少。試験①: 摂取前72.4±8.0 摂取後71.5±7.9 p<0.001。試験②: 摂取前77.7±9.2 摂取後76.8±9.3 p<0.001。
※2 BMI(体格指数): 解析対象者(BMI25kg/m²以上の男性)58名中47名でBMIが減少。試験①: 摂取前27.5±1.8 摂取後27.2±1.7 p<0.001。試験②: 摂取前27.4±2.5 摂取後27.1±2.5 p<0.001。
※3 血圧: 解析対象者(収縮期血圧130mmHg以上かつ/または拡張期血圧80mmHg以上)46名中34名で収縮期血圧が低下。試験①: 摂取前136.9±9.0 摂取後128.1±9.5 p<0.001。試験②: 摂取前134.0±6.7 摂取後130.1±8.7 p=0.024。
※4 内臓脂肪面積: 解析対象者(内臓脂肪面積100cm²以上)79名中68名で内臓脂肪面積が減少。試験①: 摂取前153.9±30.2 摂取後145.6±29.7 p<0.001。試験②: 摂取前148.3±34.8 摂取後129.1±38.7 p<0.001。
※5 仕事のパフォーマンスは、プレゼンティズムのスコアをもとに評価。プレゼンティズムとは、WLQ-J試験の総合パフォーマンススコアに基づき、出勤はしているが労働に支障をきたし0%のパフォーマンスしか出せない状態をスコア0、100%のパフォーマンスを出せる状態をスコア100とし、数値化したもの。解析対象者(総合パフォーマンススコアが94未満)64名中46名でスコアが上昇。試験①: 摂取前90.9±2.5 摂取後92.6±3.8 p=0.005。試験②: 摂取前90.7±2.6 摂取後93.0±3.5 p=0.004。
※6 排便回数: 解析対象者(排便回数週6回以下)27名中24名で排便回数が増加。試験①: 摂取前4.2±1.1 摂取後5.6±1.6 p<0.001。試験②: 解析対象者が少ないため解析せず。

注) Journal of Functional Foods 2022, 92, 105050にて報告されている研究より作成

抗老化作用で健康寿命の延伸に期待

慶應義塾大学医学部との共同研究を通じて、最適化栄養食の継続的な摂取が加齢に伴う身体変化に与える影響を検証しました。その結果、DNAのメチル化年齢^{*7}が平均で約2歳若返るという変化が確認され、健康寿命の延伸に資する可能性が示されました。老化は、細胞内の遺伝子がメチル化することで進行するとされますが、栄養バランスの取れた食生活を継続することで、このプロセスを緩やかにする可能性があることが明らかになっています。最適化栄養食は、加齢に伴う課題への新たなアプローチとしての可能性を広げています。



注) 日本農芸化学会 2025年度大会(2025年3月8日)にて発表

※7 生物学的年齢(vs暦年齢)。加齢で進行するDNAメチル化の程度を測定。生物学的年齢の指標は、疾患リスクや死亡リスクと関連があるとされている

ストレス・疲労・睡眠の改善でWell-being向上に寄与

最適化栄養食を1日1食・4週間摂取した臨床試験により、ストレス・疲労・睡眠の改善が確認されました。Well-beingの向上に寄与する可能性が示されています。

注) 日本食品科学工学会 第71回大会(2024年8月31日)にて発表



シニアの身体・認知・幸福感の維持と向上

シニアに不足しがちな栄養素を強化した最適化栄養食の摂取により、歩行速度・認知機能・幸福感の改善が確認され、加齢に伴う健康課題への新たなアプローチとして期待されています。

注) Nutrients, Volume 15, 2023, 4317に掲載



PMS症状の軽減で女性のQOLの向上に貢献

女性の約95%が経験するとされる月経前症候群(PMS)に対し、最適化栄養食の可能性を検証する臨床試験を実施。葉酸など不足しがちな栄養素を強化した最適化栄養食を1日2食、12週間168食を摂取していただいた結果、月経前および月経中の身体的・精神的不快感の軽減が確認されました。最適化栄養食の摂取による栄養バランスの調整が、PMS症状の緩和に寄与する可能性が示されました。

注) 日本農芸化学会2025年度大会(2025年3月8日)にて発表

糖尿病・高血圧患者のQOL向上と食の選択肢の拡大

糖尿病・高血圧患者向けに、満足度の高い減塩・低糖質の最適化栄養食の可能性を検証しており、臨床試験では血糖値・血圧の改善が確認されました。患者の食の選択肢拡大に寄与する可能性が示されています。

注) 日本農芸化学会2023年度大会(2023年3月14日)にて発表
右の写真はイメージで当社製品とは無関係です

